

事業の概況・商品群別の概況(連結)

上半期において、国内では、2025年の医療提供体制を示す地域医療構想の実現に向けて病床機能の分化・連携が推進されたほか、2040年の医療提供体制を展望して医師・医療従事者の働き方改革や医師の地域偏在対策に関する議論が始まりました。医療機器業界においても、各企業は医療の質向上と効率化、地域医療連携に寄与するソリューション提案がより一層求められる状況となりました。海外では、米国の政策動向の影響や景気減速懸念はあるものの、医療機器の需要は総じて堅調に推移しました。

このような状況下、当社グループは、2019年度を最終年度とする3か年中期経営計画「TRANSFORM 2020」を推進し、「高い顧客価値の創造」「組織的な生産性の向上」による高収益体質への変革を目指すとともに、「地域別事業展開の強化」「コア

事業のさらなる成長」などの重要課題に取り組みました。商品面では、スポットチェックモニタや新興国向けのベッドサイドモニタ、医用テレメータ、救急車搭載除細動器、当社初の人工呼吸器など、顧客価値の高い新製品を相次いで投入しました。人工呼吸器は、総合技術開発センターで開発したNPPV※人工呼吸器と、米国の日本光電オレンジメッドで開発・生産の人工呼吸器の2機種を発売しました(前者は国内・海外、後者は海外にて発売)。

当上半期の売上高は、前年同期比13.5%増の897億3千5百万円となりました。利益面では、増収効果に加え、一部費用の下期への期ずれなどにより、営業利益は前年同期比6.4.5%増の70億9百万円となりました。また、為替差損益が差損に転じたことから経常利益は前年同期比20.2%増の63億3千4

① 生体計測機器

脳波計、筋電図・誘発電位検査装置、心電計、心臓カテーテル検査装置、診断情報システム、関連の消耗品(記録紙、電極、電極カテーテルなど)、保守サービスなど

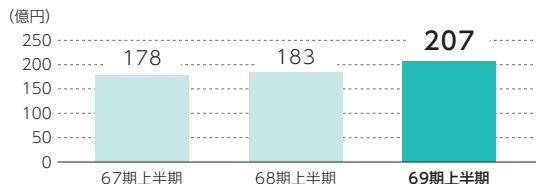


脳波計 EEG-1290

国内 心臓カテーテル検査装置や電極カテーテルが好調に推移したほか、診断情報システムの更新商談も増加しました。

海外 心電計群は前年同期を下回ったものの、脳神経系群は堅調に推移しました。

売上高 207億円(前年同期比 13.2%増)



② 生体情報モニタ

心電図、呼吸、SpO₂(動脈血酸素飽和度)、NIBP(非観血血圧)などの生体情報を連続的にモニタリングする生体情報モニタ、臨床情報システム、関連の消耗品(電極、センサなど)、保守サービスなど



ベッドサイドモニタ CSM-1702

国内 ベッドサイドモニタが好調に推移したほか、臨床情報システムの更新商談も増加しました。

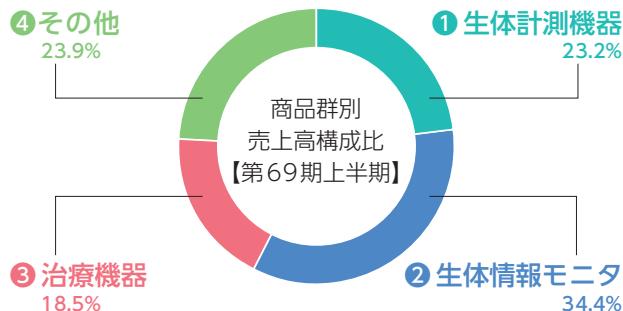
海外 欧州は好調に推移したものの、米州は前年同期並みとなり、アジア州は前年同期を下回りました。

売上高 308億円(前年同期比 11.5%増)



百万円、和解金や建物解体費用などの特別損失の計上により親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比0.7%増の39億4千3百万円となりました。

※ NPPV (Noninvasive positive pressure ventilation) :
非侵襲的陽圧換気。気管内挿管や気管切開を行わない人工呼吸管理。



③ 治療機器

除細動器、AED(自動体外式除細動器)、人工呼吸器、心臓ペースメーカ、麻酔器、人工内耳、関連の消耗品(電極パッド、バッテリーなど)、保守サービスなど



自動体外式除細動器 AED-3150

国内	医科向け除細動器、自社製の新製品を発売した人工呼吸器が好調に推移しました。AEDは新製品効果により販売台数が増加しました。
海外	医科向け除細動器は欧州、アフリカで好調に推移し、AEDは全ての地域で増収となりました。

売上高 165億円 (前年同期比 12.3%増)



■中期経営計画

TRANSFORM 2020

高収益体質への変革

基本方針

- ① 高い顧客価値の創造 ② 組織的な生産性の向上

6つの重要課題

地域別事業展開の強化

コア事業のさらなる成長

新規事業の創造

技術開発力の強化

世界トップクオリティの追求

企業体質の強化

人財育成・組織風土改革

④ その他

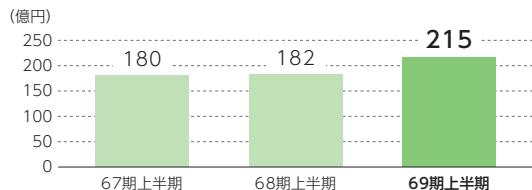
血球計数器、臨床化学分析装置、超音波診断装置、研究用機器、消耗品(試薬、衛生用品など)、設置工事・保守サービスなど



全自動血球計数・免疫反応測定装置 MEK-1303

国内	検体検査装置が診療所市場で好調に推移したほか、医療機器の設置工事や現地仕入品も前年同期を上回りました。
海外	血球計数器が中南米、中近東、アフリカで大幅増収となりました。

売上高 215億円 (前年同期比 17.8%増)



事業の概況・地域別の概況(連結)

国内市場

急性期病院、中小病院、診療所の各市場のニーズに対応した新製品を投入するとともに、医療安全、診療実績、業務効率につながる顧客価値提案の推進、保守サービス事業の強化に注力しました。消費税率引上げ前の駆け込み需要もあり、全ての市場、全ての商品群で二桁成長となりました。大学、官公立病院市場では、新築移転に伴う大口商談の受注も売上に貢献しました。商品別には、特に、ベッドサイドモニタの新製品効果や臨床情報システムの更新商談の増加もあり、生体情報モニタが好調に推移しました。この結果、国内売上高は前年同期比16.6%増の674億4千5百万円となりました。

海外市場

米州では、米国が好調だったほか、中南米もメキシコ、コロンビアを中心に好調に推移しました。欧州では、ドイツ、フランスが好調に推移したほか、トルコでの売上が回復しました。アジア州では、中近東、インドは好調でしたが、東南アジア、韓国が低調に推移しました。中国は、現地通貨ベースでは堅調に推移したものの、円ベースでは前年同期比微減となりました。その他地域では、南アフリカ、エジプトなどアフリカでの売上が回復しました。商品別には、生体計測機器、治療機器、その他商品群が好調に推移しました。生体情報モニタは現地通貨ベースでは前年同期実績を上回りましたが、円ベースでは減収となりました。この結果、海外売上高は前年同期比5.2%増の222億8千9百万円となりました。

